

## 平成 24 年度 第 3 回三重県行財政改革推進本部 概要

- 1 開催日時：平成 24 年 8 月 1 日（水）9:15～9:50
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり

### 議題 1：予算編成プロセスの見直しについて（「予算編成プロセスの見直し」検討ワーキンググループ報告）

#### 【西川財政課長】（資料 1 に基づき説明）

7 月 23 日にワーキンググループから知事に報告があった。

ワーキンググループの提言として、知事と部局長との議論・調整の機会の確保、事業の優先度と予算フレームを踏まえた予算編成、成果の確認と検証作業の活性化など 6 項目が挙げられている。

#### 【石垣副知事】

大変読みやすい報告だった。各部局で本気になって議論してほしい。各課にも下ろしてもらい、1 人 1 人が議論できるところまで深めてほしい。また、地域機関も含めてこのような提案について真摯に議論できる雰囲気づくりもお願いしたい。

#### 【植田副知事】

来年度は今年度以上に財政状況は厳しくなるが、限られた中であるので、薄く浅くではなく、メリハリをつけた、事業の優先度判断を部内でしっかり議論してほしい。

#### 【山口戦略企画部長】

今後どういう形で成案になっていくのか。

#### 【西川課長】

本報告を踏まえ、総務部において来年度の予算編成に向けた進め方（プロセス）の案を策定し、庁内で議論をいただきながら成案にしていく。

#### 【鈴木知事】

本報告はプロセスをドラスティックに変えるものではないが、それぞれ要点の改善に取り組んでいくものである。この報告を踏まえて、具体的なプロセスを早急に設計していただきたい。要点は、優先度をつけ、熟議し、情報共有し、成果の確認と検証をしっかりと行い、P D C A である C A（評価・改善）を P（計画）につなげていくことである。

予算プロセス以外のことだが、予算執行が遅いケースがあるように思う。執行が遅いと成果の検証ができない。なるべく早く執行し、成果を出していく努力をしないとイケない。

## 議題2：職員提案制度の創設について

【森行財政改革推進課長】（資料2に基づき説明）

政策提案と業務改善提案の2つあり、政策提案については、部局でテーマ設定、選考、事業化し、業務改善提案については、個別の部局に特化するもの以外は行財政改革推進課で進めていく。

過去にも提案制度はあったが、今回は「人づくり」がポイントである。また別枠予算は設けないので、費用をかけず知恵を出してもらいたい。

【石垣副知事】

（本提案制度は）人材育成でもあり、否定的にならず、応援していくスタンスで積極的に取り組んでほしい。職員が提案を出しやすい雰囲気を幹部から作ってもらい、大いに盛り上げてほしい。

【藤本地域連携部長】

職員提案するとより自分が忙しくなると思っている職員も多く、さらに異動まで関わってくるとなると、本当に提案が出てくるのかという疑問がある。もう少しインセンティブを職員に与えないと、いい考えを持っていても表に出てこないのではないかと懸念している。

【山川雇用経済部長】

部局が設定したテーマに対しての提案と、自由提案と両方募集すればどうか。

【森行財政改革推進課長】

政策提案については部局が設定したテーマに対して募集し、業務改善提案については自由テーマで募集することとしている。

【真伏教育長】

政策提案についても自由テーマがあってもいいのではないか。

【鈴木知事】

インセンティブとは例えばどのようなものがあるのか。

【藤本地域連携部長】

やはり金銭面である。しかしながら、別の提案募集で金銭的なインセンティブを設定したにも関わらず、なかなか提案が出てこなかったのも事実である。

制度はいいが、提案を出させる何かを考えないといけないのではないか。

【植田副知事】

人事異動も絡めて、自分がやりたいことを提案して自分でやれることがインセンティブではないか。

【藤本地域連携部長】

それをインセンティブと捉える職員もいると思うが、異動して時間に余裕がほしいと考えている職員もいる。

**【稲垣総務部長】**

いろいろご意見いただいたが、基本的には今回提案した方向で実施したい。

**【鈴木知事】**

職員提案制度については、人づくりの改革という位置づけで、職員の意欲向上が目的ではあるが、県民の皆さんに対し、より質の高い政策を生み出す機会を創出するためのものでもあるという意識も持ってもらいたい。

最近感じているのは、会議や会談用の答弁を作成していただくが、お金が無いからできないというのが7割くらいある。お金が無いからと思考停止になっているのではないかと心配している。お金が無くても、多少ハードルが高くても、本当にやるべきものを具現化する意欲は大切であり、そのためにも本制度を活用していただきたいし、日頃も心がけていただきたい。具体的にはまだ言えないが、農林水産部からゼロ予算でいい事業がいくつか出てきているのも事実である。お金が無いからと思考停止にならずに、ハードルが高いからやめてしまうことが無いようお願いしたい。